



## 千曲川地域の人と文化



NPO法人上田図書館倶楽部 2012年4月



## 春のおもてなし(上田市本郷)

表紙写真・文 矢幡正夫

春になるといろいろな花の季節を迎える上田電鉄別所線、塩 田町駅のホーム。暖かな日差しを受け、厳しい冬を越えたビオ ラ、パンジーの華やかな賑わいが始まった。

中学生の皆さんが協力する学校から地域への活動として、電車利用者へ心からのおもてなし、小さな一歩で歩き始めた。

開業以来90年、歴史的な丸窓電車からカラフルな車体の電車に変貌した。地域の生活だけでなく観光の一端も担い、車社会にも屈せずに走り続ける。

山々に囲まれた魅力ある田園地帯、のんびり走る姿は地域の 文化財と言える。大切な地域の足、活力の源、故郷の名物の限 りない存続を願うばかりである。



## contents

- 4 「ドストエフスキーの後は……」・・・はな
- 5 "信濃の美術館を歩く" 小諸市立小山敬三美術館 ~千曲河畔・白亜の異空間~・・・海野郁
- 8 "セカンドライフを楽しむ"
  「埋もれた歴史に光を当て、小説を綴る」清水たか子さん
  ・・・・伊藤文子
- 10 "観点" 「交流から生まれる起業・創業」・・・岡田基幸
- 12 "連載" 「老いるとはどういうことか」・・・澤田祐介
- 14 "ぶらり散策" 「大石がそこにある理由」・・・ひが
- 15 "千曲川地域の芸術家を訪ねる" ロベルト・W・バウマンさん、ルミ・W・バウマンさん ・・・ 吉池みどり
- 18 パズル ちょっといっぷく・・・萌
- 19 " 随想" 「龍の獰猛さと恵みと」・・・嶋田貴美子
- 22 "連載" 「上田小県地域の歯科医療の源流を辿る(1)」・・・村居正雄
- 26 あとがき

## 「ドストエフスキーの後は……」

数年前ドストエフスキーが盛んに取り上げられたが、今度はチェーホフの出番だと沼野充義氏は言う。「外国文学を楽しむ会」では、昨年から『新訳チェーホフ短篇集』(沼野充義訳)を読んでいる。ブームに乗ったわけではないが、メンバーのひとりが書評を読んで紹介、面白そうね、ロシア文学もいいわね、となった。『かわいい』『おおきなかぶ』など全13篇が、斬新な訳によって語りかける。

先月の例会は『牡蠣』の番だった。訳者は、「飢えた小さな少年が、当時の貧乏人にはとうてい手の届かない牡蠣を食べさせてもらえるという話で、ロシア版の『小僧の神様』のようだ。いや、チェーホフは志賀直哉より滑稽で残酷だったと言うべきだろうか」と解説冒頭で述べている。飢餓状態の少年が、見たこともない牡蠣を頭の中で奇怪なものにふくらませていく様を、医者でもあるチェーホフが冷徹さとユーモアをもって描く。少年は恐ろしさに目をつぶりながらしゃにむに牡蠣に食らいつき、それを面白がる大人たち。

さて『小僧の神様』はどうであったか。屋台のすし屋に小僧がはいって来てすしをひとつとったが、値段を聞いてまた置いて出て行く。その場に居合わせたAが偶然小僧と再会し、使いを頼んだついでにすしを存分にご馳走する。志賀直哉が自身の体験をふくらませて書いた代表作のひとつだ。満ち足りた小僧と、これでよかったのかと逡巡するA。

人の痛みを分かち合うことの難しさを考え続けた1年だった。また餓死者のニュースに胸が痛むこの頃、自分には何が出来るだろうか、などとチェーホフを読みながら考えてみる。(はな)



の風景は『薄暮千曲の流れ』に描か 贈、懐古園内に美術館が建ったのは はまさしく千曲の流れが望まれ、そ の頃遊んだ千曲川の見える場所と たって小山が注文したのは、子ども いうことだけであった。美術館から 1975年のことである。設計にあ 小山敬三画伯が自身の作品を寄

れている。

小学校の生徒の模写が展示されて山夕月』の前には、小諸市立坂の上たという力強い作品である。『浅間の油絵具一式を使い、手探りで描いの油絵具一式を使い、手探りで描い見樹林』が目に入る。兄の東京土産代に描いたという初めての油絵『盛代に描いたという初めての油絵『盛代に描いたという初めての油絵『盛代に描いたという初めての油絵『盛代に描いたという初めての油絵『盛代に描いたという初めての出い。

地形に沿ったなんとも心地よい造口から緩やかに床が下がっていく。傾斜していることに気がついた。入惹く。作品を眺めながら、ふと床が像』や女性を描いた人物画が目を風景画の他、『若き文学者K氏

れたものだという。

のレプリカを展示、それにより描かいた。授業の一環として学校に作品



りとなっている。

1989年に増設した第二展示

た時、ミニ企画としてスケッチ帳に室では特別展示が行われる。訪れ

第一展示室



美術館裏



美術館から千曲川を望む



アトリエ

描かれた壺が一緒に並ぶのだとい展」が人気を集めている。絵と共に、と「小山敬三が描いた花の絵と壺されていた。ここ数年は、夏になるされていた。ここ数年は、夏になるが名はと、リトグラフ2点が展示残された未公開の富士山のスケッ

## \* \* \*

てはいけない」と反対する。しかしては、小林館長のお話や、紹介のと言えよう。幼少時から絵に親した小山の生涯は、随分と恵まれたものと言えよう。幼少時から絵に親した小山の生涯は、随分と恵まれたものと言えよう。幼少時から絵に親した小山の生涯は、随分と恵まれたものと言えよう。幼少時から絵に親した小山の生涯は、随分と恵まれたものと言えよう。幼少時から絵に親したが出来た。醤油や味されては、小林館長のお話や、紹介ついては、小林館長のお話や、紹介ついては、小林館長のお話や、紹介ついては、小林館長のお話や、紹介で生きて行くようない。

援するようになる。 小山の思いは固く、父も受け入れ応

内にある藤村記念館で見ることがいる。その原稿は、現在同じ懐古園個展の際には、図録に序文を寄せてはフランス行きを奨める。帰国後のかった。画家をめざす小山に、藤村かった。画家をめざす小山に、藤村がった島崎藤村の影響力も大きだった島崎藤村の影響力を決ち

\* \*

小山敬三というと浅間山

日の絵を

出来る。

や小山は常に高い境地をめざしないの山は常に高い境地をめざしない。戦後軽井沢に別荘を持ったこある。戦後軽井沢に別荘を持ったことから浅間山シリーズが生れた。とから浅間山シリーズが生れた。とから浅間山シリーズが生れた。とから浅間山シリーズが生れた。とから浅間山シリーズが生れた。とから浅間山シリーズが多い。長野県民文思い浮かべる人が多い。長野県民文思い浮かべる人が多い。長野県民文思い浮かべる人が多い。長野県民文

がら長い芸術家人生を歩んだ。

5°。 が収録される予定で、発刊が待たれ行われている。新たな原稿や書簡類中心になって復刻版の編纂作業が中がになって復刻版の編纂作業がし方の記』は、現在美術館友の会がなお昭和59年に発行された『来

平成24年2月21日訪問

海野 郁

## 埋もれた歴史に光を当て、小説を綴る セカンドライフを楽し

清水たか子さん

する。 げ、 漂う。 を送る。そのためか穏や は執筆を中心にした生活 校と高校に勤務、 たか子さん。長年、 味を持った題材を取り上 もとく、その中から興 かな落ち着いた雰囲気が 地域の歴史を静かにひ 丁寧に調べて小説に 上田市在住の清水 退職後 中学

うか。

蚕都物語』、2008年 最初に上梓したのは

> の技術向上に貢献した金左衛門の 代、日本の主産業だった養蚕業、そ に残されていた貴重な資料をもと 門のお孫さんだったことから、婚家 発展に尽くした塩尻の清水金左衛 人が、幕末から明治にかけて養蚕の 理解した人も多いのではないだろ のおかげで上田における養蚕業を お多くの人に読まれている。この本 に金左衛門の生涯を辿った。明治時 水金左衛門のはるかな旅路」。ご主 のこと。サブタイトルは「養蚕家清 一生が物語風に記されており、今な

期の絵師、谷文晁について。数々の次に書き上げたのは江戸時代後 稿用紙150枚にも及んだ。現在、 名画を残しながらも、光が当てられ なかった文晁を取り上げた。書名は 太宰 治賞に応募中で、出版が待た だましや文晁』、400字詰め原

れる。

書いたという。
書いたという。
書いたという。
書いたという。
に関する内容。題して『幻の馬たちがごのような貴重な祭典を書きかがこのような貴重な祭典を書きながの小説にも出てくるという。誰様しておかないと過去の文化が消の。宮様も訪れていた馬市、島崎へ」。 宮様も訪れていた馬市、島崎で関かれていた馬市、野辺山高原で開かれていた馬市代、野辺山高原で開かれていた馬市代、野辺山高原で開かれていた馬市、最近3冊目を仕上げた。明治時

いう。膨大な量の情報を組み立てていう。膨大な量の情報を組み立ててといる。一項目につき5回は書き直すとる。一項目につき5回は書き直すとは、一項目につき5回は書きなる。目次にあたる大まかな構想をる。目次にあたる大まかな構想をる。一項目につき5回は書きない。 一項目につき5回は書きないないがっ。 膨大な量の情報を組み立てている。 一項目につき5回は書きないまず好きない。

いき、1~2年かけて書き上げる。

ウォーキングをしながら、ときに

\*\*

どに変身させる。エレガントに仕立 の柄を生かしながらデザインを決 だが、活字から離れることもある とほほえむ。 に合ったお菓子を作るのが楽しい」 参加者に大いに喜ばれる。「その場 やマーマレード。当然のことながら する。自然な食材を使ったクッキー りには必ずお手製のお菓子を持参 などに着ていくと注目の的になる。 てられた洋服は10着以上。集まり め、ジャケットやスカート、パンツな いた着物を洋服にリフォーム。着物 洋裁が好きで、タンスの奥に眠って またお菓子作りも得意で、集ま このように文筆中心の清水さん

マはすでに決まっている。表情の中に情熱を秘める。次のテーからも書いていきたい」と、やさしいよりも調べて書くことが好き。これよりも調べて書くことが好き。これはきょうも小説の構想を練る。「何はミシンを動かしながら清水さん

平成24年2月8日訪問 伊藤文子



リフォーム作品

## 交流から生まれる起業・創業

岡田基幸

財団法人上田繊維科学振興会理事 信州大学繊維学部特任教授 内閣官房 地域活性化統合事務局地域活性化伝道師

長野県内初のコワーキングスペース(HanaLab.)が市内の上田紬工房「藤本」の工房の2階にオープンした。コワーキングスペースとは、起業家やフリーランス、起業や創業に関心のある学生や主婦、士業の方や公務員、さらには、仕事の合間にサラリーマンなどが集まり、個々のビジネス活動に、お互いに知恵、アイデア、人脈を出し合い、さまざまな視点からのアドバイスを受けることのできる場所のことである。簡単にいえば、仕事をするために集うカフェのようなものである。

2月4日の HanaLab. 開所式の講演会とその後の交流会には、 上田市を中心に県内各地から120人超の参加があり、会場は 若い熱気であふれた。土曜日にも拘わらず、起業や創業に関す る講演会に、これほどまでに若者が集まったことは、上田市は もちろんのこと、長野県内でも今までなかっただろう。

このような華々しいスタートを切ることができたのは、



Hanalab.で仕事をする人たち

HanaLab. の仕掛け人であり、異業種ネットワーク(Loop38)の運営を担う間島賢一氏(デザインルームエム勤務)と井上拓磨氏(フリーランス・モバイルコンテンツ制作)の両者の、人を引きつける魅力と普段の行動からにじみ出る人徳があったからである。長年にわたり地域で幅広い層の人脈を構築し、その人脈が途切れないようにフェイスブックという新たなコミュニケーションツールを活かしきるセンスもある。

HanaLab. では、初めての人でも気軽に集まれるように、日時を決めた気軽なイベント (Jelly) をほぼ隔週で開催している。集まってくる人も、ビジネスマインドが高い。さらには、お洒落なカフェの経営でも有名な haluta の徳武睦裕氏のセレクトによる欧州家具に囲まれたスペースの雰囲気も、筆者の普段の殺風景な仕事と違い大変良い。「仕組み」を上手くまわすための「仕掛け」と「仕込み」が徹底している。

ちなみに、この HanaLab. の取り組みは、NPO 法人侍学園スクオーラ今人の理事長の長岡秀貴氏との連携により、地域の若者の社会復帰支援事業の要素も加え、長野県の平成 23 年度「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」に採択されている。地域活性化にむけた地域の人財を巻き込みつつあるあらたな渦をぜひ現場で感じてもらいたい。



ミーティング風景



2月4日の開所式



# 老いるとはどういうことか

## 澤田祐介さなだクリニック

## 加齢と老化

れによる加齢でようです。時の流のように、別物のようです。時の流ですととはありませんでまた、驚かれたことはありませんか。ヒトは誰しも公平に毎年一つずか。ヒトは誰しも公平に毎年一つずか。ヒトは誰しも公平に毎年一つずか。とうは誰しも公平にあれてまだの歳をとりますが、別齢ともはある加齢

言葉を変えれいら逃れるわから逃れるわ

ば「歳をとって

回の主題です。はどんなことでしょうか。それが今齢を重ねる、老いるとは、具体的にも老化しない」という意味でしょう。

## ①身体能力と感覚のズレ

## ②身体能力と言語能力

語能力にも変化が来るのです。語能力にも変化が来るのです。言言語能力も同じです。若い人のかいまない方は、多くの擬音や擬態語が出てきます。「ブワァーと来た車が立てきます。「ブワァーと来た車が立は、多くの擬音や擬態語が出してなんか話せませんよね。東海林してなんか話せませんよね。東海林してなんか話せませんよね。東海林は、多くの擬音や擬態語が出会話には、多くの擬音や擬態語が出言語能力にも変化が来るのです。

## ③身体能力と感情表現

筋力が衰えるということは、表情を会話では顔の表情が重要です。

衰えているということです。 表えているということです。 は自分が笑っているとは見てもら たない方が多いという、興味深い研 たない方が多いという、興味深い研 には自分が笑っているとは見てもら には自分が笑顔でいる積りでも、他人 です。ある研究機関では、お年寄り です。ある研究機関では、お年寄り

加齢から老化へ

 $\lambda_{\!\scriptscriptstyle \circ}$ 

外感・孤独感となって、ついに、アーがという思いが嵩ずると不安感・疎応との間に、何かおかしい、何処かと心(感覚)を通しての環境への対と心(感覚)を通しての環境への対と心(感覚)を通しての環境への対という思いが高さと、自分自身で違和感にズレがあると、自分自身で違和感にズレがあると、自分自身で違和感にズレがあると、自分自身では過過をしました。

では、 では、 では、 では、 でいまり、 がいらの刺激を 進行します。 でいまり、 がいと でいます。 でいまり、 がいと でいまり、 がいと でいます。 でいまり、 がいる でいまり、 がいる でいます。 でいまり、 がいる でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいます。 でいまり、 がいます。 でいまり、 でいます。 でいまり、 でいます。 でいまする。 でいます。 でいまする。 でいます。 でいまな。 でいまな。 でいます。 でいまな。 でいまな。 でいまな。 でいまな。 でいまなな。 でいまな。 でいまな。 でいまな。 でいまな。 でいまな。 

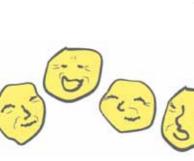
ではどうするのか

加齢は避けられません。でも加齢 す。身体能力には②と③に関わる顔 す。身体能力には②と③に関わる顔 ことと、加齢によるその変化を否定 ことと、加齢によるその変化を否定 しない心の持ち方が重要なことで しない心の持ち方が重要なことで しない心の持ち方が重要なことで しない心の持ち方が重要なことで しない心の持ち方が重要なことで しない心の持ち方が重要なことで しない心の持ち方が重要なことで しない心の持ち方が重要なことで しない心の持ち方が重要なことで

> ませんね。 なところに秘訣があるのかもしれきな高齢の女性が元気なのは、こん葉を話す能力も含まれます。話好

眼鏡や補聴器、入れ歯といった道具受け入れる目、目・耳・歯などは、老すると同じように、外界の刺激を年も住んだ家の傷んだ個所を補強感覚器官は心の窓口です。何十

しょう。
を使い、しっか



## 大石がそこにある理由

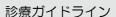


以前、豊殿地区を歩いていた折、道端のあちこちに、大きな石が幾つも目につくことに気付きました。直径数十センチくらいから、大きなものでは1メートルはありそうなものまでゴロゴロしているのです。遺跡か何かの痕跡かと思い、地元の人に聞いてみたら、「昔の水害の跡」という驚きの答えが返ってきました。川は確かにあります。行沢川といい、上流では稲倉の棚田を潤し、流れ下ってくる川です。過去にそんな大きな石を転がす程、大暴れしたことがあ



るとは思えないような、ありふれた川です。 日本は昔から自然災害の多い国なので、こういった場所はどこにでもあるのでしょう。大災害の痕跡も、年月とともに見慣れた風景になってしまい、やがて誰も気にも留めなくなってしまいます。でも大きな石はずっとそこにあり、過去の災害を、忘れっぽい人間に対して語り続けています。

(7)t)





東邦大学医学メディアセンター http://www.mnc.toho-u.ac.jp/mmc/guideline/

診療ガイドラインは、「医療者と患者が特定の臨床状況で適切な決断を下せるよう支援する目的で、体系的な方法に則って作成された文書」です。例えば、緑内障診療を検索すると、日本眼科学会のサイト内のガイドラインへリンクして、詳細な内容を確認することが出来ます。

# 千曲川地域の芸術家を訪ねる



## ロベルト・W・バウマンさん (ニューヨーク生まれ)

## ルミ・W・バウマンさん (東京生まれ)

まるで少年のようないたずらっまるで少年のようないたずらったいりだい。 は開口一番「My wife is No1」。妻は開口一番「My wife is No1」。妻で以降会話は楽しく運んだ。
「ロベルトさんは、陶器など自分でです」とおっしゃったが、この一です」とおっしゃったが、この一です」とおっしゃったが、この一つが好きなもんは、陶器など自分では、ない。だから自分の満足するものをない。だから自分の満足するものをない。だから自分の満足するものをはいったがあります。

フィックデザイナーをしていてスイカーの民家を改修した、バウマンごからの民家を改修した、バウマンごからの民家を改修した、バウマンごからの民家を改修した、バウマンごからの民家を改修した、バウマンごからの民家を改修した、バウマンごからの民家を改修した、バウマンごからの民家を改修した、バウマンごからの民家を改修した、バウマンごからの民家を改修した、バウマンごからの民家を改修した、バウマンごがある。





個性的な作品が並ぶ



移住 泉街を抜けたもう少し山間地に定 を開催する。 1985年にニューヨークから 2階では年に10回ほどの企画展 して、住まいと作業場・窯は温

いる。 というロベルトさんの作品は洒脱に に料理を盛りお客様に提供されて 品は、上田市内のレストランで実際 があふれている。ロベルトさんの作 ス・スウェーデンでも活躍してきた して繊細、なんとも都会的なセンス

いが食器など口あたりの良さそう

ルミさんの作品は一見おとなし

くはそこに足を止め見入ってしま しさと温もりを感じさせる。しばら

〈選されている。

ぱい出てくる。「ご一緒にここに住ま今でも改築中。夏には虫や蛇がいっいた。大変だったけれど楽しかった。子供が小さかったのでおんぶして働子供が小さかから切り出し、まだ柱は近くの山から切り出し、まだり開くところから家造りが始まり、

る」とロベルトさん。どと自然の中で共同生活をしていた、イヌ、ニワトリ、ネコなに見つけた。イヌ、ニワトリ、ネコなき、子育てに最適な環境をこの別所

焼物は作りたいものによって土を

の念が湧く」とルミさんのお話。わせて下さいと自然に対する畏敬

作している時間は至福の時」とおっ色の物の製作が多いが「作品を製用の食器や引き出物の注文など単興さんのルミさんは陶芸家で、日混ぜる割合を変える。

しゃる。その語り口から楽しくて仕

現地の人に直接手ほどきを受けた。マラに行き、イザリ織に魅せられててくる。ルミさんは、結婚前グァテ方がないとの思いがほとばしり出

この住宅もおふたりで山林を切

だいた。実際にルミさんが自身で手ど美しい。その写真集も見せていたとした幾何学模様は目眩がするほわかるという。そのカラフルで整然

いう。

「おいた」実際にルミさんか自身で

「おいっに生きているのかもしれ

に、根気のいる仕事だ。その体験も

をい。時折、芸術作品を作る時は実

はいっに生きているのかもしれ

ない。 は気のいる仕事だ。その体験も

グアテマラで出会い、ニューヨーク性が見える作品を作りたい。との事。りのある物でちょっとだけ自分の個見と創作に、さりげないけれど温も見と創作に、さりがないけれど温もこれからは、「こんなの見たことなこれからは、「こんなの見たことな

値観も似ていると思えた。 ち着いたおふたりは豊かな感性、価で結婚し生活して、その後別所に落

色のものを製作。 性を追求しカラフルで上品な中間 ロベルトさんはあくまでも芸術

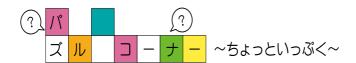
着衣の模様でどこの土地の人かが

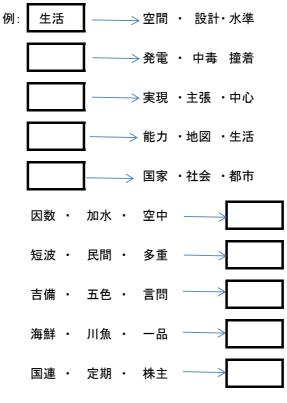
に表現するか、それが私の生涯の課日々進歩。発見や驚きをどう作品将来の抱負は「ゴールを決めたら

題です」。

平成23年11月24日訪問







3つの語に共通する2文字を入れ 4文字熟語にしましょう。



## 龍の獰猛さと恵みと

嶋田貴美子

ろしいことでした。日本中の人々が、る近畿地方の災害など、本当に恐夏の台風がもたらした大洪水によ震災に始まり、栄村の震災、そして震災に始まり、栄村の震災、そして年でした。三月十一日の東日本大年にとても悲しいことの多い

かと思います。れない思いで胸に刻んだのではない問は、なすすべもないことをやりき間は、なすすべもないことをやりき自然の猛威の前には、個としての人

妻が日本を訪れ、そして東比の震災過ぎた昨年秋に、ブータンの国王夫東日本大震災から半年あまりが

す。

しました。 葉で、私もそのお言葉にとても感動付けるブータンの国王らしいお言

付いた小さな町です。そんな田舎町す限りの田んぼの縁に楚々と張り県の片田舎に生まれました。見渡県の片田舎では水神です。私は静岡

民たちは豊かな水を祈願したので、大の龍が彫られていて、袮里の動きにしたがってそれがまるで息を吹きにしたがってそれがまるで息を吹きにしたがってそれがまるで息を吹きにしたがってそれがまるで息を吹きにしたかのようにのたうち回るの水が必要です。そのためには、勇壮な白ったが必要です。そのためには、勇壮な白ったが必要です。そのためには、勇壮な白ったが必要です。そのためになると、賑やかな祭りが行でも春になると、賑やかな祭りが行

は、それを引き起こした自然を受す。あれだけの災害に遭われた方々という心からなるメーセージを子という心からなるメーセージを子という心からなるメーセージを子という心からなるメーセージを子という心からなるメーセージを引きな正視できないような惨状を引きないないがらなるメーセージを引きないを指でしているかもしれません。

得ないのです。 でしょう。しかしブータンの国王がおっしゃられたように、その経験はおったなく個人の中に記録され、否になくそれを受動していかざるをいなくそれを受動していかざるないはないないできないけ入れることはなかなかできない

した。そしてその黄河の洪水を起こは、紀元前からとても苦慮してきま水をするために歴代の中国の皇帝水をするために歴代の中国の皇帝ながにない。やはり洪水で悩まされれました。やはり洪水で悩まされていた。

権力のシンボルになっていきました。どって、その後中国の龍は、皇帝のとなったのです。そういう経過をたとなったのです。そういう経過をたの人々は大きな龍を想定しました。の人の大りは大きな龍を想定しました。

日本にも、その中国の龍の概念は、

間もなく流入してきます。でも天皇 の権威とは結びつかずどちらかというと、豊穣の神として崇められて いた蛇信仰と結びついたのです。し いた蛇信仰と結びついたのです。し いた蛇信仰と結びついたのです。し いた蛇信仰と結びつかずどちらかと の権威とは結びつかずどちらかと を洪水を起こしたのは、龍の仕業 と洪水を起こしたのは、龍の仕業 と洪水を起こしたのは、龍の仕業

ずつわいてくるに違いありません。

されているのです。あのような悲惨意識のところで私たちの中に受容が言われたように、その経験は無ですけれども、ブータンの国王

の中にはあしたに向かう力が少しな記憶は胸から決して消えることを見出すでしょう。日々の生活さや、美しさやまた恵みの力があるさや、美しさやまた恵みの力があるさや、美しさやまた恵みの力があることも見出すでしょう。日々の共存の中にある、そのような自然にも、優しかの中にある、そのような自然にも、優しかの中にはあしたに向かう力が少しな記憶は胸から決して消えることな記憶は胸から決して消えること

会員
会員
会員
会員

「白壁の家」など著書:「子ねこのラブはみんなの天使



## 山裾を彩る

(上田市金剛寺) 木々の緑が映える季節、金剛寺 地籍にツツジの花が自宅の庭先 から山裾まで彩る田中和夫さん (89歳)のお宅がある。

山の雑木が茂る境まで赤やピンクの彩で見事な光景を形成している。ツツジの季節には地域

の新聞で見ごろを(年によって変わるが5月10日前後)報道いただくほどマニアとして熱心であり、上田地域のスポットとして貢献している。 写真・文 矢幡正夫

## 上田市デジタルアーカイブポータルサイト



http://museum.umic.ip/

上田市の博物館や美術館、歴史資料や文化を取り上げ、豊富な映像 や写真で楽しく紹介しています。

上田市立博物館、信濃国分寺資料館、上田地域データベース「上田 情報蔵」、信州上田軍記、紙本墨書 生島足島神社文書など。

また「現代に生きる蚕種製造技術」や「上田紬織物の技術」のような伝統文化や、広報番組の映像記録もあります。



## 上田小県地域の歯科医療の源流を辿る(1)

日本歯科医学史学会会員 元海野町歯科診療所長 村居正雄

## はじめに

一昨年10月~昨年4月にかけて、図書館倶楽部主催の執筆編集講座を受講する機会を得ました。ここ10年ほどボチボチ書き溜めた上田市に縁のある人物についてまとめるのにちょうど良い機会と考えて、通わせていただきました。

その人物は、門石長秋と言います。明治30年 (1897年) 国家資格をもって小県郡上田町に開業 した最初の歯科医師でした。江戸時代から明治に



門石長秋 39歳

かけて地域住民の歯の悩みに応えていたのは、実は口中医あるいは入 歯師、歯抜きといわれる人達でした。入歯師には入鼻・入眼を兼業し た者もおり、謂わば手先の器用な人たちでした。技術は秘伝で、親か ら子(養子)に伝えられました。一方、歯抜きは香具師の党で、居合 抜き、あるいは独楽回しなどの芸を縁日などで演じて、その傍ら口中 療治をするという民衆に親しまれた大衆的な存在でした。

国のレベルで医師の資格審査制度(医師開業試験)が始まったのは 明治8年(1876年)で、その年28名が合格して内務省から開業免許 を受けています。歯科医師も1名おり、大分県中津出身の小幡英之助 でした。福澤諭吉と同郷で、叔父の小幡篤次郎は慶応義塾の塾長を務 めた諭吉の親友です。篤次郎の勧めで英之助は西洋歯科医学を学び、 日本最初の歯科医師として多くの弟子を育てました。後に詳しく触れ ますが、門石長秋は大分県大野郡の出身で、明治期の日本の歯科界は 豊前、豊後の人たちの活躍で発展したのです。

明治17年(1884年)に医師免許制度(医籍、歯科医籍)がスタートすると、医師・歯科医師は全て試験に合格して医籍に登録することが義務付けられます。従来開業の口中医、入歯師等は履歴を申請することで、入歯歯抜口中療治鑑札を交付され、営業を続けることができました。明治26年(1893年)上田町には3名の鑑札所有者がいたことが記録に残っております。

残念ながら門石長秋に関する個人的な情報は全く残されていません。大分県出身の門石が、何故上田で開業したのだろうか、そして彼は歯科医師会の組織作りに奔走するのですが何故か。明治36年に長野県歯科医師会を創設して初代会長に就任すると、41年にはあっさりと東京に移住するのだが何故だろうか。また彼はどこで誰の下で歯科医学を学んだのかなどなど、私は謎に満ちた彼の生涯を辿ってみたいという強い衝動に駆られました。

## 門石長秋の生い立ちを辿る

まず参考にしたのは、長野県歯科医師会史(昭和11年刊)の復刻版<sup>1)</sup> (平成9年)で、その会員名簿に記載されていた門石の履歴は下記の通りでした。

本籍:大分県大野郡合川村宇田枝190番地

族称:士族

住所:小県郡上田町461番地

生年月:明治10年2月3日 開業の場所:住所に同じ

開業年月日:明治30年10月10日

免許番号:第370号

同下付年月日:明治30年9月30日

資格:試験合格

地図で、大分県大野郡合川村を探しましたが合併したのか見当たり

ません。地名辞典から、合 川村⇒清川村⇒現在は豊後 大野市清川町となって、豊後 とがわかりました。豊後 大野市役所戸籍課に電話を して何か手掛かりを掴を をしましたが、合個人 に進め返していること、個人 情報の壁などで先に進めま せん。思い余ってインター ネットで検索した清川町商



歯科医師法第二次改正記念 1916.3

工会に協力依頼の手紙を出しました。1ヵ月後に商工会から電話をいただきました。八方手を尽くしたが残念ながら手掛かりは得られなかったこと、照会した本籍地は現在山林となっており門石姓の方も近隣にはいないとのことで、万事休したかに思えました。

ところが、その1週間後に奇跡が起こります。清川村誌<sup>2)</sup> (昭和54年刊) に門石長秋について記載があったのでコピーを送った、との電話をいただいたのです。待ちに待った手紙が届き、正に目の前がパッと開けた感じでした。

門石長秋は、明治10年に豊後竹田の岡藩士宇野十平・ウラの二男として生まれるのですが、7歳で叔父門石虎三郎の養子になります。父十平は維新後、大分県常備兵、巡査など歴任後合川村助役を務め、農業殖産経営に情熱を燃やし、地域の養蚕業の振興、製糖産業や畜産業の普及にも貢献した人物でした。一方、養父の虎三郎は同じく岡藩士でしたが、維新当時勤皇の大義を唱えて投獄され、家禄を没収されるなど辛酸不遇の生涯を送った志士でした。長秋の一生を辿ってみると、実父の事業家気質と養父の律義な生き方が、彼の人生に大きな影響を与えたように思います。豊後大野市清川町宇田枝には、宇野家を継いだ弟長尚の孫である長史氏が住んでおられて、後日ご挨拶に伺うことができました。

明治22年12歳で地元の六種簡易学校を卒業した長秋は、向学の志に燃えて故郷を後にします。どういう切っ掛けがあったかは不明です

が、26年小倉の歯科医師石井良治の下で歯科医術を修行したと記録にあります。翌27年上京して高山歯科医学院の門を叩きます。高山歯科医学院は、筆者の母校、東京歯科大学の前身なので、ここまで辿れると後は芋蔓式にいろいろな情報を入手することができました。ふとした切っ掛けで物事は進展して行くものです。(つづく)

## <参考文献>

- 1)解読復刻版 長野県歯科医師会史(全5巻)、長野県歯科医師会 初版 昭和11年(1936)、復刻版 平成7年(1995)
- 2) 清川村誌 清川村誌刊行会編 昭和54年(1979)



## 筆者プロフィール

1942年生まれ。1961年上田高校卒業。東京歯科大学卒業後、東京医科歯科大学医学部助手、都立荏原病院歯科勤務などを経て、1973年上田市で開業(海野町歯科診療所)2009年閉院。 上田市、長野県の小児むし歯予防に取り組み、1990年以来カンボジア、ミャンマー、マレーシアなどで口腔保健向上の政策提言を行なっている。現在、アジア歯科保健推進基金(AOHPF)代表。

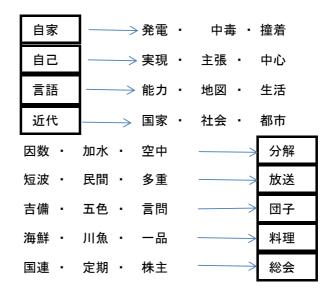
## マーケット情報



https://www.fuji-keizai.co.jp/market/index.html

株式会社富士経済サイトで、主要家電の世界市場、国内ジェネリック医薬 品市場など、項目別の市場調査の概要を見ることが出来ます。

## パズル 答



## あとがき

Little Free Library というプロジェクトがアメリカを中心にドイツ、イギリスなどで広がっている。家庭やオフィスで眠っている本や雑誌を近隣同士でシェアし、有効活用しようというもの。このネットワークに賛同する人は、郵便箱のようなミニ書棚を玄関先に置き、不要になった本を入れておくだけ。借りたい人は自由に持っていくことができる。シンプルな仕組みと物を大切にしたい昨今の風潮がマッチングして、草の根は静かに広がっている。ミニ書棚は通路沿いに置くので、雨に濡れないように屋根をつけ、扉

をつける。オリジナルを手作りする人も多く、書棚自 慢をする男性らの会話も広がる。

散歩がてら、あちこちの Little Free Library をのぞく、気に入った本があれば手にとってみる、あるいは木陰にすわってゆっくり読む、ときには通りがかりの人と本談義、傍らでは子どもたちが絵本に夢中。アットホームな想像が膨らむプロジェクトである。

(木漏れ日)

Little Free Library

環 千曲川地域の人と文化 第6号 春麗 2012年4月発行 NPO 法人上田図書館倶楽部

表紙及び文中の写真は無断使用を禁じます